

ユーキャンの第3種冷凍機械責任者 合格テキスト&問題集 第2版
訂正のお知らせとお詫び

この度は、弊社書籍をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

本書の記述内容に以下のような訂正事項がございました。お詫びして訂正申し上げます。

なお、発行年月日により対象となる訂正箇所が異なる場合がございますので、お手元の書籍の奥付で発行年月日をご確認のうえ、訂正していただきますようお願いいたします。

■「第2版 第1刷（2023年5月19日）」をお持ちの方

該当頁	該当箇所	訂正前	訂正後	訂正日
P.157	確認テスト／解答・解説 ／問10の解説	中間トラップの目的は、油を <u>圧機</u> <u>縮に～</u>	中間トラップの目的は、油を <u>圧縮</u> <u>機に～</u>	2023. 7. 28
P.189	(2) 真空試験における 留意事項／7～8行目	て減圧し、 <u>少なくとも－93kPa（絶対</u> <u>対圧力では 8 kPa）程度の真空に</u> する必要があります。	て減圧し、 <u>0.6 kPa（5 torr）以下</u> <u>の真空にする必要があります。</u>	2026. 9. 11
P.221	(2) 液化ガス（法2条 3号）／8行目	液化ガスであれば、 <u>常温の温度に</u> おいて圧力0.2MPa未満で～	液化ガスであれば、 <u>常用の温度に</u> おいて圧力0.2MPa未満で～	2025. 7. 18
P.226	表／ガスの種類／3行目	難燃性の基準に適合 しない フルオロカーボン／ アンモニア	難燃性の基準に適合 しないフルオロカー ボン／アンモニア ※「難燃性の基準に適合しない」とい う修飾語は、フルオロカーボンだけに かかり、アンモニアにはかからない。	2024. 3. 29
P.226	(2) 第一種製造者／4 行目	<u>二酸化炭素またはアンモニアの～</u>	<u>二酸化炭素、ヘリウム等またはアン</u> <u>モニアの～</u>	2024. 3. 29
別冊 P.50	予想模擬試験／法令／ ＜第2回＞／問17／ 肢ハの解説	<u>冷媒ガスの種類には関係なく、</u> <u>気密試験および耐圧試験につい</u> <u>て定められている（冷規7条1</u> <u>項6号）。「不活性ガスを冷媒</u> <u>ガスとする製造施設には適用し</u> <u>ない」というのは誤り。</u>	配管以外の冷媒設備について行 う耐圧試験で、水その他の安全な 液体を使用することが困難であ ると認められるときは、空気、窒 素等の気体を使用して <u>許容圧力</u> <u>の1.25倍以上の圧力で行うよう</u> <u>定められている。「許容圧力以上</u> <u>の圧力で行うことができる」とい</u> <u>うのは誤り。</u>	2023. 8. 25

■「第2版 第2刷（2024年5月1日）」、「第2版 第3刷（2024年10月1日）」をお持ちの方

該当頁	該当箇所	訂正前	訂正後	訂正日
P.189	（2）真空試験における 留意事項／7～8行目	て減圧し、 <u>少なくとも－93kPa（絶対圧力では8 kPa）程度の真空にする必要があります。</u>	て減圧し、 <u>0.6 kPa（5 torr）以下の真空にする必要があります。</u>	2026. 9. 11
P.221	（2）液化ガス（法2条 3号）／8行目	液化ガスであれば、 <u>常温</u> の温度において圧力0.2MPa未満で～	液化ガスであれば、 <u>常用</u> の温度において圧力0.2MPa未満で～	2025. 7. 18

■「第2版 第4刷（2025年9月1日）」、「第2版 第5刷（2026年10月1日）」をお持ちの方

該当頁	該当箇所	訂正前	訂正後	訂正日
P.189	（2）真空試験における 留意事項／7～8行目	て減圧し、 <u>少なくとも－93kPa（絶対圧力では8 kPa）程度の真空にする必要があります。</u>	て減圧し、 <u>0.6 kPa（5 torr）以下の真空にする必要があります。</u>	2026. 9. 11